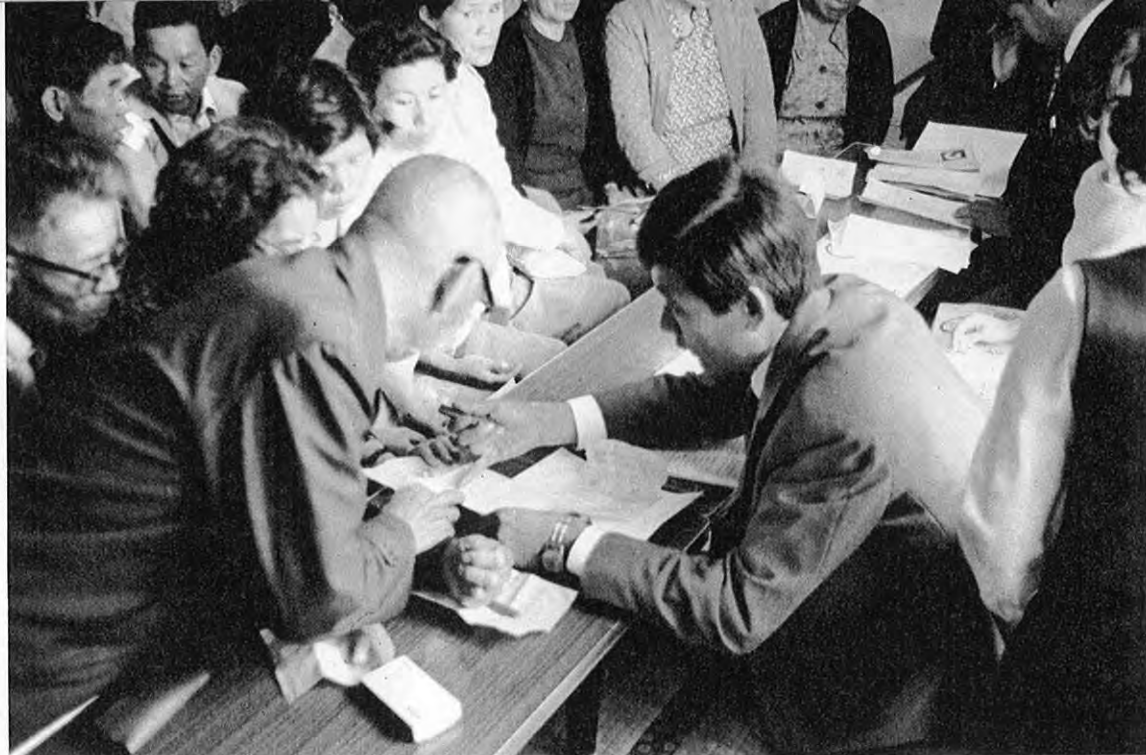


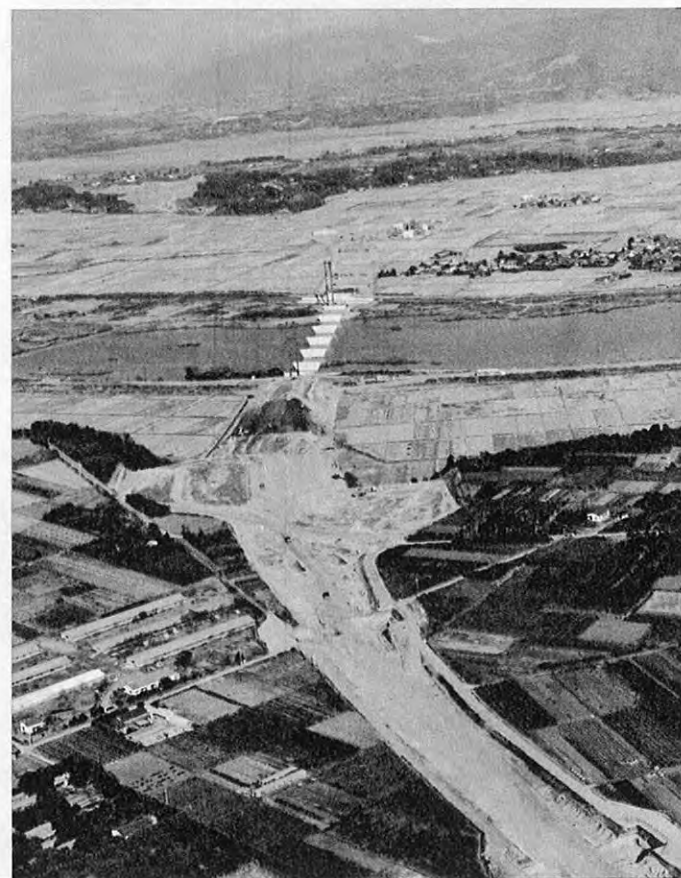
# 苓北—上海

日中海底ケーブル  
日本側陸揚げ地点決る



▲用地買収調印風景（松橋町公民館で）

▼工事が進む緑川架橋とパーキングエリア



すでに供用開始されている南関・熊本間の九州自動車道は、昨年十一月には南関・鳥栖間が開通し、その延長も鳥栖—熊本間七十六・四段となりました。また、熊本—八代間は、熊本—松橋間（二十三・九段）がすでに用地買収が終了し、専ら工事中で、松橋—八代間（十八・三段）は用地買収中です。ところが工事が進むにつれ、熊本—松橋間の城南町塚原にある塚原古墳が意外な規模で出現してきました。この地区を除いて工事は順調に進んでいます。



▲12月23日には揚陸地点現地周辺の調査を始めた国際電信電話公社の人びと



▲右側コンクリート擁壁がケーブル揚陸地点



▲白木尾台地門通寺山頂からみた富岡半島

日中海底ケーブルの日本側陸揚げ地点の候補地として県はかねてから天草郡苓北町を挙げて、運動をしてきましたが、昨年十二月二十日に国際電信電話公社は、沖繩、鹿児島、長崎と本県の候補地について海洋調査などを進めた結果、天草郡苓北町に決定しました。決定の理由として同社は、①天草下島付近の海底に岩やげが少なく敷設工事がやりやすい②海底ケーブル切断の原因となる底引き網漁業などが比較的少ない③国内の電々公社マイクロ幹線との接続に便利である④陸揚げ局の用地が取得しやすいなどをあげています。ケーブルの上陸地点は、フカ狩りをする貝瀬浜の南側、白木尾というところで、上海市南漣（なんはい）地区との間、約八百十段を結びます。総工費約五十億円、回線数四百八十回線で、昭和五十一年中に完成の予定とのこと。今後のチャーター便や船舶航路開設等への足がかりとして好影響をもたらすこととしよう。

## 南に伸びる縦貫道工事（熊本—松橋）